

東海生研 ～ メールマガジン 第158号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆農研機構・野菜花き研究部門国際シンポジウム (2月13日)
- ☆中部大学生命健康科学研究所ヘルスサイエンスヒルズシンポジウム(2月16日)
- ☆岐阜大学大学院連合獣医学研究科市民公開講座 (3月23日)
- 2. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆農林水産業イノベーションシンポジウム (3月20日)
- ☆農林水産省等のイベント情報
- 3. 競争的研究資金について
- ☆平成30年度イノベーション創出強化研究推進事業
- (農研機構・生研支援センター)
- ☆平成29年度補正予算 生産性革命に向けた革新的技術開発事業
- (農研機構・生研支援センター)
- ☆平成29年度補正予算 革新的技術開発・緊急展開事業
- (うち経営体強化プロジェクト) (農研機構・生研支援センター)
- ☆平成30年度戦略的プロジェクト研究推進事業 (農林水産技術会議事務局)
- ☆平成30年度安全な農林水産物安定供給のためのレギュラトリーサイエンス
- 研究委託事業 (農林水産省 (消費安全局))
- ☆平成30年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省 (農村振興局))
- ?平成30年度木材需要の創出・輸出力強化対策
- (「地域内エコシステム」構築事業(木材のマテリアル利用技術開発事業))
- (林野庁)
- ☆平成30年度ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業
- (水産庁)
- ☆平成30年度省力化技術導入実証事業 (水産庁)
- ☆平成30年度小型漁船安全対策技術推進事業 (水産庁)
- ☆平成30年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩からみた漁場生産力回復
- 手法の開発 (水産庁)
- ?平成30年度漁場環境改善推進事業のうち
- 赤潮及び栄養塩からみた漁場生産力回復手法の開発 (水産庁)
- ☆平成30年度二枚貝資源緊急増殖対策事業 (水産庁)

- ☆平成30年度CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業 (環境省)
- ☆平成30年度セルロースナノファイバー活用製品の性能評価事業委託業務 (環境省)
- ☆平成30年度エネルギー・環境新技術先導プログラム (NEDO)
- ☆平成30年度戦略的省エネルギー技術革新プログラム (NEDO)
- ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ3 :  
NexTEP-Aタイプ (JST)
- ☆産学共同実用化開発事業  
NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)
- ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)
- ☆平成30年度大学発新産業創出プログラム  
(START) プログラム支援型 (JST)
- ☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
- ?民間の競争的研究資金
- 4. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

#### ◆1◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

?農研機構野菜花き研究部門国際シンポジウム  
～日本のイチゴ生産は何処をめざすか～

【開催日時】平成30年2月13日(火) 13時～17時50分

【開催場所】ウインクあいち 大会議室(902会議室)

(名古屋市中村区名駅4丁目4-38 TEL:052-571-6131)

【主催】農研機構 野菜花き研究部門

【講演】

Session 1 日本のイチゴ生産の現状と課題

- 1) 品種開発(一挙成り、四季成り品種の開発動向) 野菜花き研究部門 野口裕司氏
- 2) 栽培技術(栽培上、経営上の課題を報告) 静岡県農林技術研究所 井狩徹氏
- 3) 高設栽培(高設栽培システム、環境制御) 岡山大学 吉田裕一氏
- 4) 海外との連携(品種開発、技術開発) 農林水産省 郡健次氏

Session 2 東アジアのイチゴ生産の現状

- 1) 韓国イチゴ生産の現状と課題 江陵原州大学 Yeoung Young Rog氏
- 2) 中国イチゴ生産の現状と課題 瀋陽農業大学 Lei Jiajun氏

Session 3 総合討論

【詳細】<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/12/078999.html>

【案内ポスター】[http://www.naro.affrc.go.jp/event/files/poster\\_ichigo\\_symo2018.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/event/files/poster_ichigo_symo2018.pdf)

【ポスター募集】ポスターセッションがあり、ポスター募集が行われています。

【参加】参加費は無料。参加予定人数 150名。

参加申し込みは、タイトルを「イチゴシンポジウム参加申し込み」として、氏名、所属を明記の上、[naroberry@ml.affrc.go.jp](mailto:naroberry@ml.affrc.go.jp)宛にメールにてお申し込みください。

申込締切り日：1月31日

【お問い合わせ先】農研機構 野菜花き研究部門

実行委員長 野口裕司 E-mail: [ynogu@affrc.go.jp](mailto:ynogu@affrc.go.jp)

事務局 岩崎泰永 TEL: 029-838-8681 E-mail: [iwasakiy@affrc.go.jp](mailto:iwasakiy@affrc.go.jp)

.....

☆中部大学生命健康科学研究所ヘルスサイエンスヒルズシンポジウム

～栄養・食品機能と老化、疾患予防～

【開催日時】平成30年2月16日（金）13時40分～17時

【開催場所】中部大学春日井キャンパス 不言実行館アクティブホール

【内容】

・「可食性ポリマーによる疾病予防の可能性」 生命健康科学部准教授 川本善之 氏

・特別講演1

「臓器老化モデルマウスを用いた食品の機能性評価」

千葉大学医学研究院・先進加齢医学 特任准教授 清水孝彦 氏

・「エボジアミンによる脂肪細胞の機能制御と抗肥満、メタボ予防」

生命健康科学部教授 山下 均 氏

・特別講演2

「腸内細菌と免疫老化研究」 国立長寿医療研究センター研究所副所長 丸山光生 氏

【開催案内】[https://www3.chubu.ac.jp/research\\_life\\_health/news/23218/](https://www3.chubu.ac.jp/research_life_health/news/23218/)

【案内リーフレット】 [https://www3.chubu.ac.jp/documents/research\\_life\\_health/news/23218/23218\\_d942102517050289498ce2e3394cdead.pdf](https://www3.chubu.ac.jp/documents/research_life_health/news/23218/23218_d942102517050289498ce2e3394cdead.pdf)

【参加】聴講無料、予約不要

【連絡先】生命健康科学部事務室：0568-51-5097（ダイヤルイン）

.....

☆岐阜大学大学院連合獣医学研究科 市民公開講座「ミツバチと病気」

【開催日時】平成30年3月23日（金）14：00～17：00

【開催場所】岐阜大学サテライトキャンパス（岐阜スカイウィング37東棟4階）

【主催】岐阜大学大学院連合獣医学研究科

【内容】

・ミツバチの病菌の伝播 岐阜大学応用生物科学部教授 土田浩治 氏

・アメリカ腐蛆病とヨーロッパ腐蛆病

埼玉県農林畜産部安全課主査・連合獣医学研究科修了生 荒井理恵 氏

・蜂蜜と幼児ボツリヌス症

東京農業大学教授・元連合獣医学研究科客員教授・

元厚生労働省国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長 五十君静信 氏

【案内リーフレット】 <https://www1.gifu-u.ac.jp/~ugvphdhp/news2017/kouen20180323.html>

【参加】参加費無料、事前登録不要

◆ 2 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

☆農林水産業イノベーションシンポジウム

(農林水産省)

【開催日時】平成30年3月20日(火) 13時分30分～16時45分

【開催場所】農林水産省本館7階講堂(東京都千代田区霞が関1-2-1)

【講演】

(1)挨拶

(2)特別講演:「ゲノム編集で世界の胃袋を満たす」

京都大学大学院農学研究科助教 木下政人 氏

(3)「ここまで進んだ現場での最新技術」 4人の講師による講演

(4)政府における科学技術振興の動き

農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官 菱沼義久 氏

(5)農林水産技術会議委員と講演者との意見交換

【参加申込】申込締切 3月13日(火) 17時。参加申込要領は下記の「詳細」参照

【詳細】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/1943>

.....  
○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 3 ◆ 平成29～30年度競争的研究資金等について

☆平成30年度イノベーション創出強化研究推進事業

(農研機構・生物系特定産業技術研究支援センター)

<http://www.naro.affrc.go.jp/brain/innovation/koubo/h29.html>

分野等:従来の常識を覆す革新的な技術・商品・サービスを生み出していくイノベ

ーションの創出に向け、「知」の集積と活用による研究開発を重点的に推進する提案公募型の研究開発事業「イノベーション創出強化研究推進事業」を推進することとし、公募により研究を委託する。

公募期間：平成30年1月16日～2月16日

.....

☆平成29年度補正予算 生産性革命に向けた革新的技術開発事業

(農研機構・生物系特定産業技術研究支援センター)

<http://www.naro.affrc.go.jp/brain/productivity/koubo/h29.html>

分野等：我が国農林水産業の競争力強化を図るため、担い手の不足や高齢化など生産現場が直面する課題に対応しつつ、生産性を飛躍的に向上する技術が求められている。このため、「生産性革命・集中投資期間」である2020年までの3年間において、現場ニーズに即した明確な開発目標の下、生産者・企業・大学・研究機関等がチームを組んで、人工知能（AI）やドローン等の最先端技術を活用し、省力化・低コスト化等の生産性革命に資する実証型の研究開発について、公募を通じて委託する。

公募期間：平成30年1月16日～2月16日

.....

☆平成29年度補正予算 革新的技術開発・緊急展開事業(うち経営体強化プロジェクト)

(農研機構・生物系特定産業技術研究支援センター)

[http://www.naro.affrc.go.jp/brain/h27kakushin/keiei/koubo\\_h29/index.html](http://www.naro.affrc.go.jp/brain/h27kakushin/keiei/koubo_h29/index.html)

分野等：平成29年11月にTPP11交渉が大筋合意したこと、また、平成29年12月に日EU・EPAが交渉妥結したことに伴い、新たな国際環境の下で、我が国農林水産業・食品産業が持続的に維持・発展するためには、農林水産業の現場で求められている農林水産物・食品の輸出や外国産との差別化、現場の更なる生産性の向上等を可能にし、生産者の所得を向上させる技術を生み出し、確実に農林水産業等の現場に実装することで、生産者の技術力を向上させることが重要である。このため、国が定めた開発目標に向かって、研究勢力を結集し、生産者の参画の下、速やかな社会実装を目指す実証研究について、公募を通じて委託する。

公募期間：平成30年1月16日～2月16日

.....

☆平成30年度戦略的プロジェクト研究推進事業(農林水産省農林水産技術会議事務局)

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/180201.html>

分野等：

1. 現場ニーズ対応型研究
  - 1) 青果用かんしょの省力機械移植栽培体系の確立
  - 2) 茶葉の低温保管システムの開発と作期拡大を可能とする新品種の育成
  - 3) ドローンやほ場設置型気象データセンサー等センシング技術を活用した栽培

管理効率化・安定生産技術の開発

- 4) 総合的な悪臭低減、臭気拡散防止技術の開発
- 5) 成長に優れた苗木を活用した施業モデルの開発
- 6) クロマグロ養殖の人工種苗への転換促進のための早期採卵・人工種苗育成技術や低環境負荷養殖技術の開発
- 7) 有害化学物質・微生物の動態解明によるリスク管理技術の開発
- 8) 家畜の伝染病の国内侵入と野生動物由来リスクの管理技術の開発
- 9) 国際連携による農業分野における温室効果ガス削減技術の開発
- 10) ドローン等を活用した農地・作物情報の広域収集・可視化及び利活用技術の開発

2. 基礎的・先導的研究

- 11) AIを活用した食品における効率的な生産流通に向けた研究開発
- 12) 民間事業者等の種苗開発を支える「スマート育種システム」の開発
- 13) 海外植物遺伝資源の民間等への提供促進

公募期間：平成30年2月1日～3月22日

.....

☆平成30年度安全な農林水産物安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究委託事業  
(農林水産省 (消費・安全局))

<http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/gijyutu/180202.html>

分野等：

1. 食品安全に関する課題
  - ・食品中のメチルフラン類縁体の分析法の開発
  - ・燻製に使用する木材の水分含量等が食品中の多環芳香族炭化水素類濃度に及ぼす影響の検証
  - ・海水中のノロウイルス指標微生物の分析法の開発
2. 動物衛生に関する課題
  - ・ヨーネ病の感度・特異度の高い遺伝子検査手法の確立
  - ・新たな輸入畜産物の消毒薬剤及び消毒方法の開発

公募期間：平成30年2月2日～3月9日

.....

☆平成30年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省 (農村振興局))

[http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/180126\\_1.html](http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/180126_1.html)

分野等：

1. 農地の大区画化・汎用化に資する技術
2. 農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための適切な保全管理に資する技術
3. 土地改良施設の耐震強化等に資する技術
4. 小水力発電等の農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進に資

する技術

5. 農業収益力向上に資する先進的な基盤整備に係る技術

公募期間：平成30年1月26日～3月30日

☆平成30年度木材需要の創出・輸出力強化対策

(「地域内エコシステム」構築事業(木材のマテリアル利用技術開発事業))(林野庁)

[http://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/30koubo\\_1/30mhk0128.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/30koubo_1/30mhk0128.html)

分野等：

1. 新素材製造・利用技術開発
2. 改質リグニンの実用化に向けた事業性評価
3. 竹のマテリアル利用に向けた効率的な竹材生産技術の開発

公募期間：平成30年2月2日～3月1日

☆平成30年度ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業 (水産庁)

[http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/170130\\_unagi.html](http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/170130_unagi.html)

分野等：これまでの実証事業で得た技術開発の成果を踏まえ、?仔魚の生残率の向上、?再現性の向上、?省力化・省コスト化等の実証試験に取り組み、ウナギ種苗を大量生産する際に必要な知見を得る。

公募期間：平成30年1月30日～2月28日

☆平成30年度省力化技術導入実証事業 (水産庁)

[http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/180202\\_se24.html](http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/180202_se24.html)

分野等：水産業の省力化に有効な設備等(複数の機器・装置で構成されるシステム又は関連機器・装置を含む)を導入し、その効果を確認する実証試験を行う。

公募期間：平成30年2月2日～23日

☆平成30年度小型漁船安全対策技術推進事業 (水産庁)

[http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/180202\\_se25.html](http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/180202_se25.html)

分野等：小型漁船を対象として、水産業の安全性向上に有効な設備等(複数の機器・装置で構成される安全性向上のシステム又は関連機器・装置を含む)を導入し、その効果を確認する実証試験を行う。

公募期間：平成30年2月2日～23日

☆平成30年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩からみた漁場生産力回復手法の開発 (水産庁)

[http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/180202\\_se30.html](http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/180202_se30.html)

分野等：ノリ等の海藻養殖が行われる冬季には、ケイ藻赤潮等により栄養塩が不足

し、ノリやワカメ等の色落ち被害が発生することから、ノリ等の海藻養殖場の海域において、適正な栄養塩供給手法の開発などを支援する。

公募期間：平成30年2月2日～23日

.....  
☆平成30年度漁場環境改善推進事業のうち赤潮及び貧酸素水塊の広域自動モニタリング技術の開発」 (水産庁)

[http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/180202\\_se31.html](http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/180202_se31.html)

分野等：赤潮・貧酸素水塊の発生状況の適切な把握と予察のため、水温、塩分、クロロフィル、濁度、溶存酸素などを広く観測できる連続観測装置の開発を行うとともに、広域の水質データを効率的に収集・公表するシステムの開発を支援する。

公募期間：平成30年2月2日～23日

.....  
☆平成30年度二枚貝資源緊急増殖対策事業 (水産庁)

[http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/180202\\_se35.html](http://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/180202_se35.html)

分野等：二枚貝資源を増大させる仕組みとして、アサリ等について新たに開発された垂下式養殖の技術等を用いて、増殖を目的とする場所に、天然で発生する幼生の量を上回る多量の幼生を発生させたり、稚貝を定着をさせること、さらに漁港の静穏水域のスペースを活用すること等により、効果的・効率的な増殖手法の実証化の取組を行う。

公募期間：平成30年2月2日～23日

.....  
☆平成30年度CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業 (環境省)

[http://www.env.go.jp/earth/ondanka/biz\\_local/30\\_a33/index.html](http://www.env.go.jp/earth/ondanka/biz_local/30_a33/index.html)

分野等：

1. 交通低炭素化技術開発分野
2. 建築物等低炭素化技術開発分野
3. 再生可能エネルギー低炭素化技術開発分野
4. バイオマス・循環資源低炭素化技術開発分野
5. 社会システム革新低炭素化技術開発分野

公募期間：平成30年1月11日～2月9日

.....  
☆平成30年度セルロースナノファイバー活用製品の性能評価事業委託業務 (環境省)

[http://www.env.go.jp/earth/ondanka/biz\\_local/30\\_a37/index.html](http://www.env.go.jp/earth/ondanka/biz_local/30_a37/index.html)

分野等：セルロースナノファイバー（CNF）活用材料で部品等を試作し、実機に搭載することで製品としての信頼性、CO2削減効果等の性能評価を実施するとともに、早期社会実装に向けた導入実証を行う。

公募期間：平成30年2月1日～3月1日



.....  
☆平成30年度エネルギー・環境新技術先導プログラム (NEDO)

[http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100161.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100161.html)

分野等：

1. エネルギー変換・貯蔵システム領域
2. 革新生産プロセス領域
3. 次世代革新材料領域
4. 先進機械システム・電源システム領域
5. 熱利用・プロセスシミュレーション・計測機器領域

公募期間：平成30年2月2日～3月5日

.....  
☆平成30年度戦略的省エネルギー技術革新プログラム (NEDO)

[http://www.nedo.go.jp/koubo/DA2\\_100222.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/DA2_100222.html)

分野等：現行の「省エネルギー技術戦略」に掲げる「重要技術」を中心に、高い省エネルギー効果が見込まれる技術開発を対象として助成する。

公募期間：平成30年2月5日～3月13日

.....  
☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ3：NexTEP-タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日 (第3回締切)

.....  
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_mirai01.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日 (第3回締切)

.....  
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_ippan01.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日 (第3回締切)

.....  
☆平成30年度 大学発新産業創出プログラム (START) プロジェクト支援型 (JST)

<http://www.jst.go.jp/start/boshu/h30/index.html>

分野等：大学等にて、事業プロモーターのマネジメントのもと、市場や出口を見据えて事業化をめざした研究開発プロジェクトをJSTが支援する。

公募期間：平成30年1月16日～3月14日

(第1次申請 (平成30年度第1サイクル))

.....  
☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!) (総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000206.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html)

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- (1) いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- (2) G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- (3) 以心伝心ICTサービス基盤
- (4) フレンドリーICTサービス技術
- (5) 社会インフラ維持管理サービス技術
- (6) レジリエント向上ICTサービス技術
- (7) 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～平成30年3月30日

.....  
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください (下記のURL)。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

#### ◆ 4 ◆ 新技術情報について

☆園芸関係

○作業精度が高く高効率な軟弱野菜調製機を開発

～ハウレンソウの調製作業の省力化に期待！！～

農研機構は、株式会社クボタ、株式会社斎藤農機製作所と共同で、ハウレンソウを対象とした高能率軟弱野菜調製機を開発しました。現行機では4名作業が前提ですが、開発機では、2名作業でも連続した調製作業が可能となり、作業能率も現行機と比較して最大約1.5倍となります。本開発機により、調製作業の省力化が期待されます。

・農林水産技術会議事務局 2017年農業技術十大ニュース

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/171220-8.pdf>

○青切りタマネギの新省力収穫・調製体系を開発  
～フレコン利用で人力による運搬が不要に！～

香川県農業試験場は、香川県中讃農業改良普及センター、株式会社ニシザワ、株式会社和田オートマチックスと共同で、青切りタマネギを省力的に収穫・調製する機械化体系を開発しました。本技術を用いることで、収穫から調製に至る労力を手作業の半分程度に削減可能で、これにより経営規模拡大が期待されます。

・農林水産技術会議事務局：2017年農業技術10大ニュース

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/171220-6.pdf>

.....

#### 編集後記

寒気の厳しい2月に入りましたが、9日には韓国の平昌（ピョンチャン）で冬季五輪の開会式が行われ、韓国と北朝鮮との合同チーム結成が結成され、統一旗の下で競技するというオリンピックならではの光景が出現しました。韓国政府の冬季オリンピックを成功させたい、甚大な被害が生じる武力衝突を避けたいとの思いが伝わってきます。競技においては、日本選手のスピードスケート、スキー、フィギアスケート等での活躍が期待されます。一方、羽生選手の怪我からの回復具合が気になります。

ところで、最近読んだ本に、河合雅司著「未来の年表」（講談社現代新書、2017年6月発行）があります。去る2014年11月号の本メールマガジンで、増田寛也編著「地方消滅～東京一極集中が招く人口急減～」(中公新書、2014年発刊)をご紹介しましたが、2040年時点での人口減による地方自治体の消滅予測が出され、社会的に大きな衝撃を与えました。一方、「未来の年表」では、2016年から2065年以降までの更に長期を見通し、この期間の節目となる年を21挙げて、その時々日本社会で何が起きているかを予測しています。例えば、2023年には「企業の人件費がピークを迎え、経営を苦しめる」、翌2024年には「3人に1人が65歳以上の「超・高齢者大国」へ」、2042年には「高齢者人口が約4000万人とピークに」達し、著者は「2042年問題」と呼び日本社会の大ピンチとして問題提起しています。この頃には、勤労世代が大きく減り、低年金、無年金の高齢者が巷にあふれています。2050年には世界の人口が97億3千万人となり、日本が世界的な食料争奪戦に巻き込まれていると予測しています。2065年の日本の人口は約8千8百万人で、それ以降急減し、100年後には約5千60万人、200年後には約1380万人となり、「外国人が無

人となった国土を占拠」していると予測しています。著者は、次世代のために今取り組むべきととして、10の処方箋も提案しています。

人口推計学では、人口動態予測はかなり長期でも大きくはずれることはないと言われています。しかし、人口減による問題は「ゆでガエルの法則」のように、目に見える変化が急に起こるということではないので、抜本的な少子化対策が結果的に長期間遅れてしまいがちで、現に、長らく出生率が低下したままです。目先のことも重要ですが、将来予測を重視した取組みを、特に、政治家、行政官、企業経営者の方々に心がけていただきたいと思います。本書は既に36万部売れたそうですが、更に多くの人に読んでいただき、本気の少子高齢化対策、子育て支援、これから家庭を築く若者の雇用の安定を重視する社会にしていく上で、参考にしていただければと思う次第です。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 0 5 2-7 8 9-4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>